

(3) 論理的思考法の基本セミナー

《 事業目的 》

企業や自治体において、戦略・政策立案や問題解決に取り組む場合、一定の方法論というものがある。中小企業、中小自治体ではその方法論が必ずしも浸透していないと考えられる。

本セミナーでは、その方法論の基本を成す、いわゆる「論理的思考法」などを、事例を多用して理解していただく。

主な内容は、基本思考(仮説思考、ゼロベース思考)、論理的思考(MECE ※、その表現方法であるロジックツリー、2軸マップ、ピラミッド構造など)

※ MECE(ミーシーもしくはミッシー、Mutually Exclusive and Collectively Exhaustive の略)とは、「重複なく・漏れなく」(モレなく、ダブリなく)という意味である。

《 進め方 》

- ・東北活性研の職員のオリジナル教材(自身の戦略立案・問題解決の経験にもとづくもの)を使用して、その職員が対象企業・自治体に出向いて実施する(資料代、出張旅費も含めて無償)。
- ・今年度は試行とし、対象は東北活性研に関わりのある組織に個別にオファーを出して決定する。

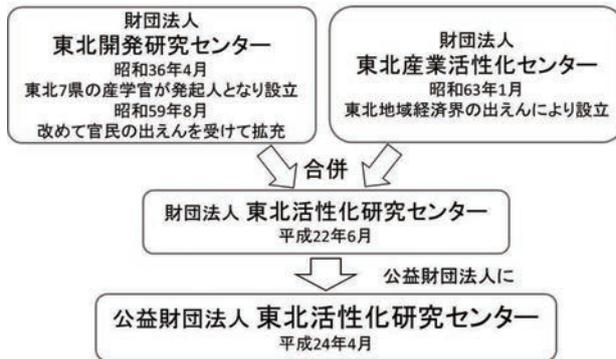
《 概要報告 》

- ・次の団体に対して計5回実施した(実施順)。時間はそれぞれ1時間～2時間30分。
 - 平成28年8月2日 一般社団法人 東北経済連合会 20～40歳代12名
 - 平成28年9月9日 東北電力株式会社 グループ事業推進部 20～40歳代10名
 - 平成29年1月19日 NPO 法人きらりよしじまネットワークほか混成チーム 20～40歳代5名
 - 平成29年2月28日 山形県川西町 各部門 20～40歳代5名
 - 平成29年3月3日 山形県寒河江(さがえ)市 地域おこし協力隊員 20～40歳代3名
- ・セミナー後の感想によると、講師の実体験に基づく内容は、わかりやすく有用と概ね評価されたが、時間が短いという意見多数。
- ・この種のセミナーは中小市町村・中小企業であっても受講機会があること、及び実践で使えるスキルは数時間程度の座学で身につくものではなくOJTが重要であることの2点から、セミナーのみの実施はこの試行をもって終了とする。今後は、東北活性研のプロジェクト支援などで実際のプロジェクトに取り組むメンバーに対して必要に応じて本セミナーの内容を提供する。

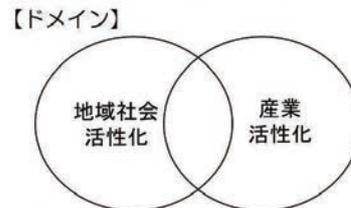
- 資料見本をホームページに掲載 <http://www.kasseiken.jp/business/rearing/2016.php>

資料サンプル

東北活性研とは



【活動理念】
知をつなぎ地を活かす
～連携力で地域社会と産業を活性化する～



【ミッション】

- 課題解決のための「知」が生まれる場になる
- 課題解決のための「人」が育つ場になる

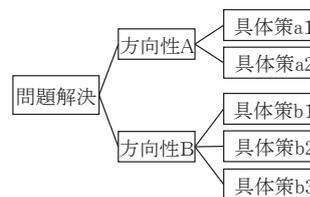
セミナーの概要・目次

本セミナーでは、政策立案や問題解決に際して、体系的で論理的な検討方法の基本を説明します。この方法の利点は、従来の経験と勘に過度に頼る方法に比較して、説得力の高い結論を早く得られることです。内容は、講師が経験した一流のコンサルティング会社のノウハウと「論理的思考(ロジカル・シンキング)」関連書籍のエッセンスです。事例は相当前のものを含みます。無断複製はご遠慮ください。

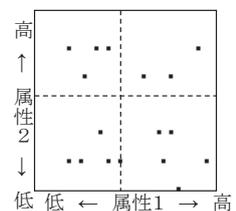
目次

- はじめに
1. 検討の基本思考
 - (1) 仮説思考
 - (2) ゼロベース思考
 2. 体系的・論理的な分析
 - (1) 「モレなく、ダブリなく」の考え方
 - (2) 「モレなく、ダブリなく」分析するための3つの汎用図解
 - (3) ツリー型(樹形図) → 右図
 - (4) 二軸型(二軸マップ) → 右図
 - (5) プロセス型(ビジネスシステム) → 右図
 3. 論理的な構成・ピラミッド構造 → 右図
 4. 報告・提案の形式
 5. 問題解決の全般的留意点
 6. 参考書
- おわりに

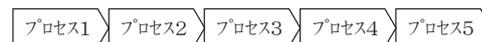
ツリー型(樹形図)



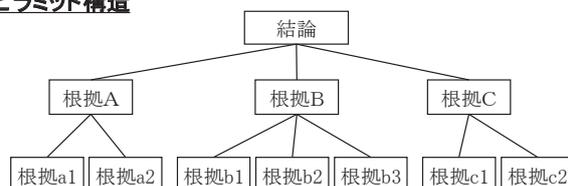
二軸型(二軸マップ)



プロセス型(ビジネスシステム)

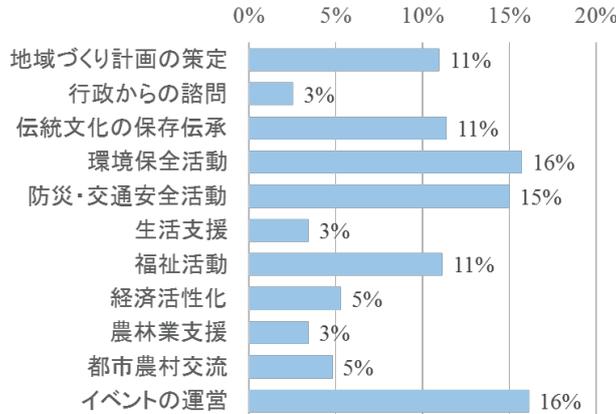


ピラミッド構造



本論の前に、いくつかの例を出します。それぞれの例の項目立てについて、どこに問題があって、どのように改善すればよいか、考えてみてください。（答えはこの冊子には載っていません。）

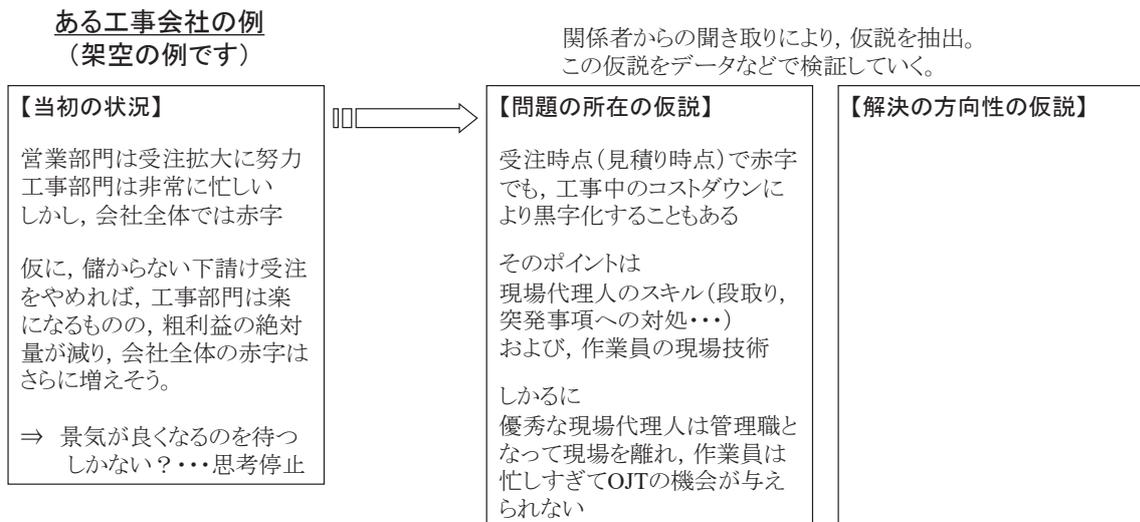
【例1】 アンケート： 地域運営組織(地域協議会など)の活動内容（自治体向け、複数回答可）



出所：坂本誠「全市区町村アンケートによる広域的地域マネジメント組織（地域運営組織）の設置・運営状況に関する全国的傾向の把握」（平成24年11月～平成25年3月実施）

1. 検討の基本思考 (1) 仮説思考

仮説思考のイメージをつかんでいただくために、下に少し難しい例を出しました。



1. 検討の基本思考 (2) ゼロベース思考 (発想の転換)

本セミナーの事例は実際の出来事とは異なります。

ゼロベース思考とは、過去の経験、固定観念にとらわれないで考えましょう、ということです。ものごとの構造を理解し、それを変えるということでもあります。下は電力会社の組織体制の例です。

ゼロベース思考による仮説

地域独占／機能別 相互牽制型組織

間接部門中心
コスト責任が分散
10年の長期計画と単年度計画のみ

- 経営層
- 考査室
- 秘書室
- 企画部
- 人事労務部
- 広報地域交流部
- 関連事業部
- 総務部
- 用地部
- 経理部
- 資材部
- 燃料部
- 営業部
- 配電部
- 電力システム部
- 土木建築部
- 火力部
- 原子力部
- 立地環境部
- 情報通信部
- 研究開発センター
- 監査役室

分野別に重点事項は異なる。何でも全社一律のコストダウンだけではどうなのか。機能別組織は経営層人材の育成には向かないと一般に言われている。電力自由化に備えてどういう組織・経営管理体系がよいのか。

東北電力の実際の組織とは異なります。

自由化／市場分野別 責任明確型 自律組織

直接部門中心
コスト・収益責任一元化 ⇒ 管理会計の充実
各部門の自律的な改革 ⇒ 中期計画の導入

- 経営層
- 経営企画部
- 火力本部 (立地、燃料等を含む)
- 原子力本部 (立地、燃料等を含む)
- 電力流通本部 (用地を含む)
- 営業本部
- 間接各部

資料 5

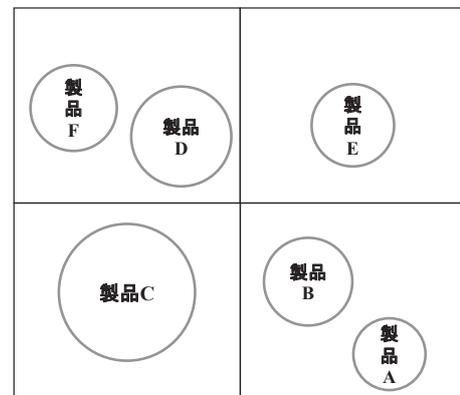
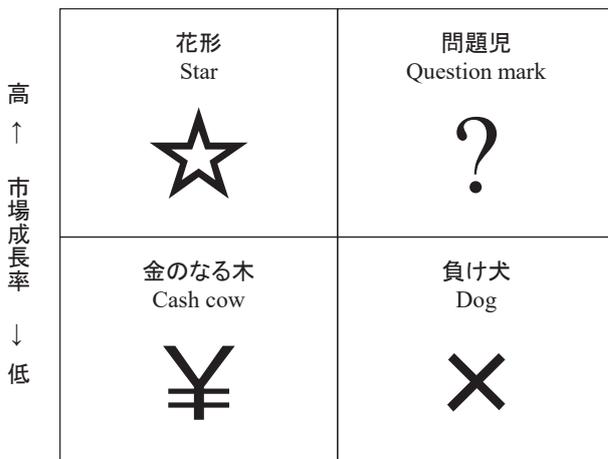
3. 体系的・論理的な分析 (4) 二軸型(二軸マップ)

本セミナーの事例は実際の出来事とは異なります。

二軸型は、タテ、ヨコ2軸でものごと进行分类する手法。下は、有名なボストン・コンサルティング・グループのPPM。(各製品についての今後のスタンス(さらに資源投入するか、撤退するかなど)を議論するための道具。)

PPM = Product Portfolio Management 製品構成の管理

ボストン・コンサルティング・グループのPPM



高 ← 相対市场占有率 → 低

資料 6